

小・中学校における共生教育、特に助け合いによる生活支援の理解をうながす人間教育をどう行うのが望まれるか

提言

子どもたちに地域と交流し、
地域と協働する機会を与え、
大人の関わりが高まれば
子どもたちはそれぞれに主体的に学び、
その人間性を豊かにしていく。

登壇者

| | | |
|----------|--------|------------------------|
| 【進行役】 | 中村 豊 | (公財) さわやか福祉財団 |
| 【アドバイザー】 | 嶋野 道弘氏 | 元文教大学教育学部教授 |
| | 大河原 敦氏 | 前 川西町立吉島小学校校長 |
| | 齋藤 舞氏 | (社福) 埼玉県社会福祉協議会地域活動支援課 |
| | 武智 理恵氏 | (特非) まちと学校のみらい理事 |
| | 田中 克博氏 | 精華町キャラバン・メイト連絡会代表 |

議事要旨 中村 豊

標題のテーマで人間教育、特に児童・生徒の主体者意識の育成や地域と学校の連携について事例発表に基づき、意見交換を行った。

発表1 田中 克博氏

京都府精華町キャラバン・メイトで実施している「認知症サポーター養成講座」の取組について発表していただいた。コンセプトは「地域づくりはジブンゴト、ミライゴト!」「認知症もジブンゴト」。この活動を通し子どもたちが成長し、「精華町が変わってきました」とご報告いただいた。

発表2 武智 理恵氏

横浜市青葉区市ヶ尾での中高生の活動。学校と地域、行政の三者が連携して中高生をバックアップして、協働の場を創出し、地域課題の解決に取り組む事例を発表していただいた。活動を通し、大人たちへの信頼や多彩な人との出会い、そして体験的な共生の学びが生まれたとご報告いただいた。

発表3 大河原 敦氏

山形県川西町吉島地区でのコミュニティ・スクールと地元NPO「きらりよしまネットワーク」とのコラボによる活動について発表していただいた。子どもたちはどのような地域環境で育つべきかを考え、それがふるさと回

帰につながることを期待しているとご報告いただいた。

発表4 齋藤 舞氏

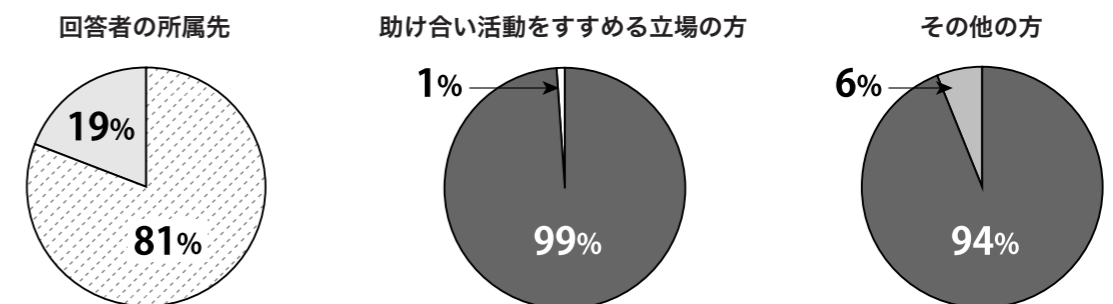
埼玉県社会福祉協議会の小中高生向け福祉教育関連事業について発表していただいた。福祉の心を育むことを目的にした各種事業を通して、地域福祉の推進、児童・生徒の主体的な取組や地域の一員としての気づき、次につながるような展開をめざしているとご報告いただいた。

発表5 嶋野 道弘氏

静岡市立清水江尻小学校での5年生総合的な学習の時間における「巴きらきら学習」についてDVDを視聴した。この学習で子どもたちは地域課題解決に取り組み、巴川の清掃活動を実施した。活動を通じ、子どもたちが変化した事例に基づき、子どもの持つ潜在的な力や子どもの人間力を育てるために人・社会・自然との関わりが不可欠であることをご報告いただいた。

以上の発表に基づき、2つの視点から意見交換を行った。1つは子どもたちの主体性をどのように育成するか、2つめは地域との協働の場をどのように創出するかである。登壇者の皆様やアドバイザーの嶋野先生からも関係者の連携や大人の関わり的重要性が指摘された。これにより提言をまとめた。

アンケートの結果 参加者概数：96名 回答者数：85名



■ 寄せられた声から

- 京都府相楽郡精華町、特定非営利活動法人まちと学校のみらい。子どもが自発的に社会参加できるしくみがある。地域の大人とのゆるやかなコミュニケーションとなっている。日本の明るい未来に向けたボランティアは、聴く側をポジティブにしてくれます。ありがとうございました。